



# 南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成30年6月29日

校長 福田 俊彦

## 自然を楽しむ

校長 福田 俊彦

1学期の登校日も後15日間となりました。新たな学年での学び、生活にも慣れ、よりよい学校生活、よりよい友達との関係を築こうとする子供の姿に触れています。

さて、4年生の国語の学習でのインタビューを受けることができました。インタビューする内容を決め、聞き取った内容を新聞に表現していく学習です。内容のひとつが、「梅雨」についてでした。

質問1 「梅雨というと何を思い出しますか。」 → 「カタツムリです。」

質問2 「梅雨でいやなことは何ですか。」 → 「蒸し暑いところです。」

質問3 「梅雨の魅力は何ですか。」 → 「木々の青葉が一層鮮やかになるところです。」

質問4 「梅雨の好きなところはどこですか。」 → 「雨の音を聞くことです。」

4年生との5分程でのやりとりです。質問されて気付くことがあるものです。答えているうちに、「梅雨の楽しみ」を子供から教えられたように思えました。いやなイメージの質問だけではなかったからです。大人の思いからすると、「じめじめしている。」「洗濯物が乾かない。」「外で自由に動けない。」「服が濡れる。」等、マイナスのイメージが先行しがちではないですか。もちろん、「雨の中のアジサイの光景が好き。」「カタツムリの歩みがゆっくりと見られる。」「傘の花が咲いている光景がきれい。」と肯定的に捉えている方もいます。

梅雨の始まりに、子供たちに話したことができました。雨のことです。そのきっかけが、校舎2階のこたばの教室の廊下に掲示されている「雨の音をかんじよう」のコーナーです。そこに掲示されている写真です。光景を想像しつつ表題を読んでみてください。「まばらに雨がふりはじめた様子」「雨のしずくがゆっくり落ちる様子」「雨つぶがかさにあたる様子」「細かい雨が静かにふる様子」「雨がはげしくふる様子」「長く雨にぬれている様子」です。子供との会話でこれらの写真からどのような言葉が出てくるでしょうか。水たまりに落ちる雨つぶが輪をきれいに作っている。ビニール傘にはじける雨つぶがキラキラしている。雨のしずくが落ちる途中で丸くなっている。細かい雨がたくさんの線を描いている。激しく降る雨つぶが水たまりに跳ね返り、王冠のように見える。雨に打たれ続ける自転車がかっこいい。梅雨時の雨を楽しむヒントがたくさん出てきそうです。

7月21日から始まるこの夏休み。子供は自然から多様なことを感じ、気付きを広げていくことでしょう。不思議を感じることもあるでしょう。感動する場面に出会うこともあるでしょう。この15日間の登校日は、夏休み向けの準備期間にもなります。子供が学校生活とは違った体験をこれまでの経験の上に積み重ねていけるよう心構えを築いていきます。